

# 『地域安全保障と日米協力について』

2007年5月1日

(於：ヘリテージ財団)

## 1 はじめに

先ほど、長い講演をさせていただきました。その中で、この第二部のパネルのテーマも含めて意を十分に伝えさせていただきましたので、ここでは簡単に一点のみお話ししたいと思います。それは、日米協力を軸としたアジア太平洋地域の他の国々、インドや豪州との安全保障関係の強化についてです。ここでは、特にインドとの関係強化についてお話ししたいと思います。

## 2 インドの重要性

この一年、我が国は、アジア太平洋地域において、主体的防衛戦略の一環として、インドや豪州といった国との安全保障上の関係の強化を進めてまいりました。

まず、インドの重要性についてお話しします。インドにつきましては、特に地政学的にみて、我が国にとって、きわめて重要な位置に存在していると言えます。インドはインド洋を大きく望む形で位置し、アジア太平洋地域と欧州、中東あるいはアフリカとを結ぶシーレーンの中心に位置しております。これは、貿易立国であり、ほとんどの貿易を海上輸送に頼る我が国にとって、極めて重要な地域にインドが存在するということであり、特に、原油の大部分を中東に依存する我が国にとって、まさに死活的な位置にインドが存在していると言えます。

シーレーンの安全確保という面では、インドはさらに重要な意義を有しています。テロや海賊対策を考えた場合、この地域

で唯一作戦能力を有する海軍を有するのはインドです。また、北朝鮮がイランや他の中東諸国にミサイルなどの大量破壊兵器等に移転・拡散しようとする動きを監視するには、インド洋に面したインドとの協力が不可欠と言えます。

インドを囲む周辺地域も重要です。インドは、中国、イラン、イラク、アフガニスタン、パキスタン、ビルマ、タイ、ネパール、インドネシア等といった、国際社会において注目される国々に隣接したり、近傍に所在したりしており、インドとの関係を見無視して、これらの国々に係る諸問題を扱うことは困難となっています。特に、日本とインド両国が、中国を挟みこむような形に位置していることは、戦略的にみて決して無視できない、極めて大きな考慮すべき要素であると考えます。

さらに重要なのは、インドや豪州といった国々は、我が国及び米国との間で、自由や民主主義といった共通の基本的価値観を有する国々であり、こうした基本的価値観を守らねばならないという共通の目標を確認できる国々だということです。

### 3 近年の日印関係の進展状況

こうした重要性を有するインドとの間で、安全保障上の関係を強化することは、我が国の防衛及びアジアの平和と安定にとって極めて有益であると考えます。このため、我が国は、「主体的防衛戦略」の一環として、日印間の安全保障対話を促進し、防衛交流の拡大を図ってまいりました。

実際に、昨年5月には、防衛庁長官であった私とインドのムカジー国防大臣との間で防衛首脳会談を行い、「防衛分野における協力等に関する共同発表」に署名をしております。

この共同発表の中では、テロへの対処や海上交通の安全及び

安定への貢献など、共通の目標のため、両国の協力を促進していくことに合意しました。そして、具体的な協力として、防衛政策対話を実施するなどの防衛当局間の協力、インド洋の津波災害のような災害救援分野での協力、艦艇の相互訪問や共同訓練の実施などの訓練分野や留学生・研究者の交換などの教育分野での協力、技術分野における協力などをあげており、多角的に協力の深化を目指しております。

このように、私が進めました日印の防衛分野での協力促進という方向性は、その後、両国政府の外交方針全体にまで拡大することとなり、昨年12月には、安倍総理とシン首相の間で、「日印戦略的グローバル・パートナーシップに向けた共同声明」が署名され、戦略的な協力関係を一層深化するため、具体的なスケジュールを設定することとなりました。

こうした方針を受け、この4月11日に、日印間で初めて次官級の防衛政策対話が実現し、双方の防衛政策や情勢認識に関するハイレベルでの意見交換を行ったところです。さらに、4月12日には、日米印の三カ国の戦闘艦艇、合計9隻（日本4隻、米2隻、印3隻）からなる艦隊が我が国近海に集結し、初めて、日米印三カ国共同訓練を実施しました。これは単なる儀礼的な親善訓練にとどまらず、日米それぞれのイージス艦が合計3隻（日本1隻、米2隻）も参加して防空戦闘訓練を実施するといった本格的な共同訓練であります。

このように、私が日印防衛首脳会談を実施してから1年のうちに、日印間の防衛協力関係はめざましい発展をとげてきたところでもあります。

#### 4 日米協力と日印関係

最後に、日米協力において、こうしたインドとの安全保障関係強化がどのような意義を有するのかについて申し上げたいと思います。

先日、安倍首相とブッシュ大統領が日米首脳会談で確認したとおり、日米同盟は揺ぎない関係であり、かけがえのない同盟国であります。この意味で、日本が米国以外の他の国と安全保障上の関係を強化することは、日米同盟に代替し得る、新たな同盟関係を模索しているなどということでは全くあり得ません。今年3月には、豪州との間においても、米国以外の国では初めてである安保共同宣言を署名しましたが、これもインドの場合と同様、決して新たな同盟関係の模索を意味していません。

日本が米国以外の他の国、特に、インドや豪州といった国との間で安全保障上の協力関係を強化する目的は、日米安保が地域の平和と安定に及ぼす効果をより高め、効果が及ぶ地域をより拡大することにあります。すなわち、日米同盟という軸に、民主主義や自由といった共通の価値観を有するインドや豪州などの国々を吸引し、アジア・太平洋地域の安全保障のみならず、世界的規模での平和と安定の創出に強大な影響力と責任を有する有志の連合を集めるということです。

また、これは、日、米、インド、豪州で連携して、対中国包囲網を結成するという意味では決してありません。むしろ、我々は、こうした共通の認識、価値観を有する国々の連なりの中に、中国が積極的に参画するよう促し、中国自身も世界と地域の平和と安定に責任を有する国家として、ふさわしい行動をとるよう呼びかけていきたいと考えます。

その際、こうした共通の価値観を有することの重要性とそれによる利益、すなわち国際社会においては、敵対ゲームよりも

協力ゲームとして認識し、振舞うことこそが、各国相互の利益の最大化が図れるという国際関係の模範として、中国に見せつけ、明確なメッセージを送ることにより、彼らの対外政策の変化を促していくことが重要であると考えています。

#### 4 おわりに

さきほどの第一部のパネルでも講演したとおり、日米の協力関係は、地域の安全保障におけるいわば公共財的役割を果たすものであります。同じ価値観を有する他の国々との関係の強化は、この公共財的機能の拡大を目指すものであり、地域の平和と安定という安全保障環境の改善に大きくつながるものだと考えます。

ご清聴ありがとうございました。

(了)